

JSS 海外安全速報

「イスラム国 (IS)」が西側世界でのテロを呼びかけ 《欧米諸国、ロシア、オーストラリア等》

1. プロパガンダ動画を公開

1月26日(金)、「イスラム国 (IS)」のメディア機関「ハヤート・メディア・センター」がSNSを通じて西側世界でのテロ攻撃を呼びかけるプロパガンダ動画を公開した。

「呼びかけに答えよ (ANSWER THE CALL)」と題した2分半の短い動画の中でISは、過去にラスベガス、ロンドン、ニースなど欧米諸国で起きたテロや、斬首処刑の映像などを見せつつ、「欧州、米国、ロシア、オーストラリアなどに住む兄弟達よ／前進の時は来た／信条と信念を持って／樂園は剣の下に横たわっている／行け、呼びかけに答えよ／彼らすべてを殺せ／喉をかき切れ」などと呼びかけた。

過去数か月にわたって本拠地であるイラク、シリアで後退を続けてきたISは、メディア機関もかなりの打撃を受けたと見られ、ここしばらく目立ったプロパガンダ活動をしていなかった。

[ISが公開した動画タイトル「呼びかけに答えよ」]



今回の動画公開は、ISがメディア機関の再編成を図り、新たなリクルートを試みていることが窺える。内容は過去に出してきたプロパガンダと大差なく、これをもって欧米諸国でテロが急増するとは考えにくいだが、今回の呼びかけを受けて、個人のIS信奉者などがナイフ攻撃、暴走車テロ、放火テロなどといった比較的容易に実行できるテロを敢行する可能性は排除できない。

ただし、このような状況はこれまでと同じであり、今後も継続するので、持続可能な基

本的テロ巻き添え防止策を維持し続けることが望ましい。

2. 駐在員・出張者の留意事項

- ① 市街においては、政府官公庁、警察・軍施設、イスラム過激派から敵視されている国の在外公館、宗教施設（教会、シナゴグ）、市場やショッピングモール、大規模なパーティー会場、コンサートや宗教関連のイベント会場等々、テロの標的になりかねない場所には極力近づかないか、長居を避ける。
- ② 鉄道、地下鉄など公共交通機関を利用する場合は、可能な範囲でラッシュアワーを避け、やむを得ずラッシュアワーにかかる際は、できるだけ最後尾の車両に乗る。
- ③ 鉄道駅、空港では不特定多数の人々が集まるコンコースやロビー等に長居しない。
- ④ 観光スポット、デパート、ショッピングモールなどを利用する際は利用客の少ない時間帯を選び、また漫然とこれらの場所に長居することなく、用件を済ませたらなるべく早く離れる。
- ⑤ 公共の施設や多数の人が集まる場所では、周囲に不審な人物がいないかをチェックするとともに、万一の場合に避難すべき経路や方向を確認し、非常口の所在を確認しておくことを習慣づける。
- ⑥ 何らかの異変に気づいたら直ちに避難を開始する（周りの人が逃げないから自分も逃げないという集団心理に陥らない）。携帯電話はマナーモードにする。
- ⑦ 来場者の手荷物検査や車両突入防止ブロックの設置など、十分な警備態勢が敷かれていないイベントは参加を見合わせ、参加する場合は長居を避ける。また、一定の警備措置が敷かれている会場等であっても、万一の場合に避難すべき経路や方向を確認し、これを習慣化する。
- ⑧ 自動車やトラックの暴走テロに対しては、次の事項にも留意して危険回避に努める。
 - a. 車の突入防止対策が十分に施されていない歩行者天国、または歩行者天国同然の状態にある繁華街の道路では、人出がピークとなる時間帯における通行を極力避け、暴走車が突入する起点となりかねない交差点の付近は速やかに通過する。また、できるだけ歩道や歩道柵の中、建物寄りなどを歩く。
 - b. 家族で行動する場合は、子供は常に親の支配下に置き、異状を察知したら子供を引率して避難できる態勢を保持する。
 - c. 車の暴走などを目撃あるいは近くで人の悲鳴などを聞いた場合は、直ちに身近な建物の中や街路樹・柱の陰などに隠れた後に事態の把握に努め、可能であれば安全と思われる方向へ避難する。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。